

平成 28 年 1 学期終業式あいさつ

おはようございます。

今日で 1 学期が終わります。振り返ってみてください。みんなは、自分の力を全ての出し尽くすことができたでしょうか？

1 学期間、みんなの様子を見て感じていたことは、すごく気持ちの良い挨拶をしてくれる。課題、週末課題を毎日のように点検している先生方の姿を見て、みんなも頑張っているんだろうなあ。たくさんの教科で小テストを行っているから、これもきっと頑張っているんだろうと、みんなを信じて見ていました。

ところが、先日、みんなの学校や家庭での生活をまとめたデータについての話を聞き、勉強時間が充分とは言えない状況を知り、残念な気持ちでいっぱいになりました。これでは、英語や古典などの予習、数学や他の教科の復習は十分にできているのだろうかとの心配に変わりました。

なぜ、こんな結果になったのかを考えてみました。家庭では、大半の人が、スマートフォンを使用して過ごしているという結果が出ていたことから、スマートフォンがその原因を作っていると想像できました。

皆さんに質問です。「毎日 2 時間以上勉強する生徒と、全く勉強しない子どもが数学の小テストを受けました。どちらの生徒の得点が高かったでしょうか。」

答えは、「全く勉強しない子どもの方の点数が高かった」です。しかし、これにはある条件が付いていました。それは「毎日 3～4 時間スマホを使用すると、毎日 2 時間勉強しても数学の平均点が低くなった」のです。これは、東北大学の川島教授の研究結果です。これは、スマホを長時間使うと、考える、覚える、集中する、仲良くするなどをつかさどる脳の司令塔である前頭前野の働きが弱くなるからということでした。

でも、私は 2 時間以上勉強しているのだから、平均点が低くなるなんて考えられないと少し疑っていましたが、先日のテレビで「意志決定能力量には、1 日に限界がある。限度を超えると疲れて働きが悪くなる」との話がありました。2 時間勉強していると思って机に向かっていても、疲労した状態のために、勉強の効果はなくなってしまうと分かりました。だから、みんなには、「スマホを使うなら 1 時間にすること」、その他の時間は、気分転換に話をしたり、別の興味ある本を読んだりして過ごして欲しいと思います。

ここで、私が担任をした生徒の話をします。彼は、1 年生の時には進学希望でしたが、どこの大学に入れるのかなと心配するような成績で、さぼってばかりの生徒でした。

ところが、2 年のちょうど今頃、突然「関学に行きたいので頑張ります」と言い出しました。頑張るって欲しいとは思っていましたが、いつまで続くか心配でした。簡単には成績は上がりませんが、3 年の最後の模試では合格可能圏内に近づいていました。そして、関学に挑戦。4～5 回受験して、2 つの合格を勝ち取りました。

何がきっかけで頑張ったのかは知りませんが、彼の人生は、ある日を境に、全く違ったものになりました。彼だけではなく、たくさんの生徒に教えられました。「人は何か感じ

て決断すれば、頑張れる。そして、あきらめなかったら実現できる。」ということでした。

さあ、夏休みは、みんな自身に任される時間が増えます。3年生は、すでに進路実現に向けて、突っ走っていると思いますが、1年生と2年生は、今の現状をもう一度しっかり見つめ直してください。

先ほどの学習時間で、今の状態であるなら、逆にチャンスということもできます。どの学校でも、勉強時間やスマホにかける時間は同じような状況にあると思います。だから、早く気づいて、頑張った人が、人生を変えることができます。30分を1時間に、1時間の人は2時間にすれば、必ず今とは違った未来が見えてくると思います。勉強時間が増えると、ちょっと無理かなと思っている大学が見えてきます。

それからもう一つ言いたいことは、これまでの自分の殻を打ち破って欲しいということです。「自分で自分の限界を決めて努力しない」ということがないようにしてください。これまでのことは知りません。高い目標を持ち、それに向かって挑戦して欲しいのです。それを、部活動の粘り強さ、頑張りに見たように思います。

ハンドボール部の近畿大会の1回戦、滋賀県代表の彦根東高校戦。前半は、6対13と苦しい戦いでした。どのチームでも、あきらめの気持ちが漂い、このまま負けてしまうのが普通ですが、後半にはいると、高南チームは失敗をおそれず積極的に攻め続けました。あきらめることなく攻め続け、何と終了5分前までに追いつき、逆転してしまいました。自分たちを信じ、前半戦の苦しさに打ち勝っての素晴らしい大逆転劇でした。応援していてすごく感動しました。

野球部も姫路東戦で、苦しい試合を乗り越えました。同点で迎えた9回表のノーアウト1・2塁。もうダメかと思った人もあったのではないのでしょうか。そのピンチを0点に抑え、その裏見事にサヨナラ勝ちを収めました。苦しい練習はどのチームもやっていますが、早朝の掃除、挨拶運動など、いろいろなことに取り組んだ成果が、9回のピンチをこらえ、サヨナラに結びつけたように思います。「野球の神様が微笑んでくれた」のです。

次の試合、ハンドボールはインターハイの京都代表チームに、野球部は甲子園の常連チームに負けはしましたが、決してあきらめることなく、堂々と戦ってくれたことを誇りに思います。

「自分で自分の限界を決めない」「自分たちの強い気持ちを持ち続ける」「最後まであきらめない」を教えてくださいました。部活動だけでなく、勉強でも、学校行事でも、ボランティア活動でも、誰もが、そんな強い気持ちをもった新しい高砂南高校の生徒を目指してください。

充実した夏休みを送り、9月1日には、いきいきした顔で登校してください。